

「政策のための科学」拠点・関係機関連携のためのワークショップ
開催結果概要

政策研究大学院大学 SciREX センター

1. 日 時：2015年12月14日（月）10：00～12：00
2. 場 所：政策研究大学院大学 会議室 1AB
3. 出席者：SciREX センター、各拠点、政策リエゾン、文部科学省、関係機関（全40名）
4. 議 題：
 - ・2016年度以降のSciREX事業および関係機関の役割と連携について、文部科学省及び関係機関から説明
 - ・拠点間連携プロジェクト案について、各拠点から提案
 - ・議論（各拠点提案に対して政策リエゾンよりコメントのうえ、議論）

5. 主な議論内容（総論のみ記載）

拠点間連携プロジェクトの要件

- 拠点間連携プロジェクトは、重点課題に基づき、各拠点における特色を生かしながら、3年間で政策実装を目指した取組を行い、具体的な成果（マニュアル、データベース、ケース集など）を出していくことが目的。その際、各拠点が其々足りないところは、他拠点、関係機関やそれ以外の関係者と連携、補完しあっていくことが期待されている。
- 同時に、アカデミアとしても意義のある取組、課題であることが必要。
- 拠点間連携プロジェクトの目的についてより明確にして共有していくこと、メッセージを出していくことが重要。
- 拠点間連携プロジェクト間、またはRISTEXプロジェクトが、どのような粒度で結びついて一つの連携プログラムとなるのか、一層のすり合わせが必要ではないか。

重点課題間の補完性や連携性

- 重点課題間に補完性や連携の可能性があるのでないか（例えば少子高齢化と地方創生の間関係性など）。
- 重点課題の設定や、連携プロジェクトの粒度の設定、全体の構成などについては、SciREX事業全体の基本方針とともに、文部科学省を中心に、来年1～3月に議論。

政策実装への道筋

- 政策形成への実装のイメージについて、研究側・政策側の双方で、より一層具体化して考えていくべき。
- 政策リエゾンのみならず、現場の政策担当者（例えば産学連携、教育、ICTの担当課等）や実務家をインボルブさせていくことが必要。

- マニュアル、データベース、事例集などの、具体的に見えるアウトプットがあることは重要だが、それだけで政策実装につながるとはいえない。それを超えた政策インプリケーションの提示、学習のプロセスの共有化、コミュニティの形成が必要。
- 政策担当者に対して政策ニーズを聞くことは重要であるが、政策担当者自身把握していないことも多い。ある事象があったときに、表面的な整理だけでなく、背後にある構造的な関係性の整理や、問題解決に必要な学問間の関係性の整理等の情報も必要。それらに基づいた仮説の提示と検証、問題へのアプローチの仕方の提示をしてほしい。
- 政策的キャッチフレーズや流行にとらわれすぎず、根本的な問い（例えば産官学連携に対して国が投資すべき意義等）についても問い続けていくべき。

政策の実効性の確保・システム改革

- 今日の議論であまり触れられなかった「政策の実効性の確保・システム改革」にあたるテーマがより重要ではないか。 → 主に SciREX センター内のプロジェクトで行っていくが、拠点間連携プロジェクトでも補完できるところはしていく。

その他

- 各拠点間の連携について、現状では十分調整が進んでいるとは言えない。2月中旬の申請原案（連携PJ文）に向けて、関係者間で一層話を詰めていく必要がある。

6. 今後のスケジュール

- ・ 2016年1月末 拠点補助金（計上分）申請原案提出
- ・ 2016年2月中旬 拠点補助金（連携PJ分）申請原案
- ・ 2016年4月 交付決定予定